治水

発　行　全国治水期成同盟会連合会

東京都千代田区麹町4丁目8番26号 ロイクラトン麹町
電　話　03(3222)6663　FAX　03(3222)6664
ホームページ　http://zensuiren.org/
お問い合わせ　zensuiren@k2.dion.ne.jp
編集・発行　椿本和幸

目　次

平成28年度 治水事業促進全国大会・・・・・2
主催者挨拶・・・・・・・・・・・・・3
来賓挨拶・・・・・・・・・・・・・・・4
意見発表・・・・・・・・・・・・・・・8
決　議・・・・・・・・・・・・・・・・・10
平成28年度 九州地方治水大会・・・・・・・11
平成28年度 中部地方治水大会・・・・・・・16
平成28年度 東北地方治水大会・・・・・・・22
平成28年度 中国地方治水大会・・・・・・・26
平成28年度 近畿地方治水大会・・・・・・・31

平成28年度 治水事業促進全国大会の開催

平成28年12月2日(金)午後2時からシェーンバッハサボウにおいて「治水事業促進全国大会」を石井啓一国土交通大臣をはじめ、多くの来賓。また、全国から治水事業に造詣の深い市町村長をはじめ関係者に多数参加いただき開催した。

主催者として陣内孝雄全国治水期成同盟会連合会会長が挨拶を行い、ご来賓を代表して石井啓一国土交通大臣からご祝辞を賜り、続いて根本幸典国土交通大臣政務官、藤井比早之国土交通大臣政務官並びに大野泰正国土交通大臣政務官のご紹介、続いてご臨席を賜った衆議院議員並びに参議院議員をご紹介した後、国土交通省幹部のご紹介をおこない、議事に入った。

初めに、国土交通省水管理・国土保全局泊宏治水課長から「治水事業に関する最近の話題」について説明をいただいた。

意見発表は、北海道南富良野町池部彰町長から「太陽と森と湖のまち　南富良野町」～安全・安心・快適なまちづくりに向けて～と題して、本年台風第10号による豪雨災害により得た教訓及び早急かつ着実な治水施設の整備と自治体・関係機関による情報共有・連携などのソフト対策の推進を車の両輪としてすすめていくことが、不可欠との所見を述べられた。

本年7地方で開催された地方治水大会並びに意見発表を受けて、岩井國臣副会長から大会決議が提案され、全会一致で決議された。

大会終了後、本決議を要望書として、衆議院議員並びに参議院議員及び国土交通省並びに財務省に要望活動を行った。

大会に先立ち、(元)国土交通省東北地方整備局企画部防災課長(現)復建技術コンサルタント事業企画本部理事の熊谷順子氏から「東日本大震災の対応について―大震災から得た教訓―」と題して特別講演をいただいた。

主　催　者　挨　拶

■ 全国治水期成同盟会連合会会長
陣内　孝雄

一言御挨拶を申し上げます。

本日、平成28年度治水事業促進全国大会を開催いたしましたところ、治水事業の推進に熱心に努力されている皆様に多数ご参集いただき、誠にありがとうございます。このように盛大に本大会が挙行できますことは大変に意義深く、皆様の御協力に対して心より感謝申し上げます。

また、御来賓として、石井国土交通大臣をはじめ、国会議員の先生方、国土交通省の幹部の方々並びに関係機関の皆様には、御多用中にもかかわりませず御臨席賜り、誠にありがとうございます。皆様のお力強い御指導、御鞭撻に厚くお礼を申し上げますとともに、引き続きのお力添えを賜りますよう、お願い申し上げます。

御承知のとおり、今年は、多くの台風が上陸するなど、台風や集中豪雨により、これまでに経験したことのない雨量に見舞われ、全国各地で災害が発生しております。8月には台風7号、11号、9号が北海道に、また台風10号が暴風域を伴ったまま岩手県大船渡市付近に上陸しました。これは昭和26年に気象庁が統計を開始して以来、初めてのことでありまして、特に10号は東北、特に岩手県、北海道において死者・行方不明者27名、全壊家屋393棟の甚大な被害を生じました。今年もまた治水事業の重要性と事業推進の緊急性を痛感させられたところであります。

ここで、本年の台風や豪雨によって犠牲になられた方々の御冥福をお祈りいたし、被災された皆様にお見舞いを申し上げたいと思います。

申し上げるまでもなく、治水事業は洪水や高潮などの自然災害から国民の生命と財産を守り、暮らしの安全・安心と経済社会の活力の維持・増進を図るものであります。とりわけ、我が国は気象・地形等の条件から自然災害が多発し易い上に、人口と資産の大半が河川の氾濫危険区域内に集積しておりますので、治水安全度を着実に高めて、公共の安全性の保持と公共の福祉の増進を図ることは国政の根幹的な重要な課題であり、国家百年の計により推進されなければなりません。

このような中、国土交通省では、来年度予算の概算要求として、治水関係予算を今年度の1.16倍に当たる約9200億円余、また東日本大震災復興のために必要とされる予算を要求しておられます。この他に省全体として社会資本総合整備費の要求がなされています。

これらの予算案で防災意識社会と水意識社会へ新たに展開していくことは重要だとの認識のもとに、生産性の向上などストック効果を重視しつつ、防災・減災対策、老朽化対策等への課題に対応することとされております。来年度の治水予算をこの概算要求に沿って十分に確保していただくように、その実現方を国会並びに政府に対して強く要請してまいらなければなりません。

皆様、御承知のように、昨今の治水事業予算は平成9年時のピークに、大幅に削減が続いておりまして、現在は当時の半分ほどになっております。このままでは所定の河川整備事業を計画的に推進していくことが困難ではないかと憂慮されます。

その一方では、災害の外力となる降水量は地球温暖化による激甚化、頻発化しており、また南海トラフ巨大地震による津波の発生等が近づきつつあります。さらに検証作業を終えたダム建設事業が一斉に再開され、また老朽化が進む河川管理施設の維持・更新も必要となっております。魅力溢れる地方創生のために水辺空間の形成も重要であります。

このような治水をめぐる諸事情に着実に対応していくためには、大幅な治水予算の増大が必要となっております。したがいまして、全国治水期成同盟会連合会としては、全国7地方で実施してまいりました地方大会での決議並びに本日の意見発表を踏まえて、治水事業促進全国大会としての決議文を取りまとめ、皆様の総意として国会及び政府に対しまして治水事業の促進を強く要請してまいる所存であります。皆様の一層の御支援と御協力をお願いいたします。

結びとして、出席の皆様の御健勝と御活躍をお祈りいたしまして、挨拶といたします。どうぞよろしくお願いいたします。

来　賓　挨　拶

■ 国土交通大臣

石井　啓一

皆様、こんにちは。きょうは全国からお集まりをいただきまして、大変御苦労さまでございます。

本日、ここに平成28年度治水事業促進全国大会が開催されるに当たりまして、一言御挨拶を申し上げます。

御列席の皆様には、平素から国土交通行政全般、とりわけ治水事業の推進に当たり多大なるご支援、ご協力を賜り、厚く御礼を申し上げる次第であります。

御承知のとおり、我が国は自然災害に対して極めて脆弱な国土条件にございます。本年も梅雨前線や相次ぐ台風の上陸に伴い全国各地に被害が生じました。特に8月に相次いで発生した台風は、7号、11号、9号と3つが北海道に上陸をし、10号は東北地方の太平洋側に上陸をいたしました。いずれも気象庁の統計開始以来、初めてのことであり、北海道や東北地方では甚大な被害が発生をいたしました。

国土交通省では、昨年の関東・東北豪雨を踏まえ、「施設では防ぎ切れない大洪水は必ず発生するもの」との意識変革を促し、社会全体で洪水に備えるため、全国の国管理河川におきまして水防災意識社会の再構築の取り組みを進めてまいりましたが、今年の夏より、都道府県が管理する河川にも対象を拡大し、取り組みを加速しているところであります。

また、本年8月の一連の台風被害を踏まえまして、現在、社会資本整備審議会に対して、水害の頻発化・激甚化が懸念され、かつ人口減少化にある今日の社会情勢の中で、中小河川等における水防災社会の再構築を如何に進めていくべきかについて諮問をし、ご審議をいただいております。

今後とも洪水に備えるハード・ソフト対策をスピード感をもって推進し、国土交通省の総力を挙げて地域の安全・安心の確保に取り組んでまいりますので、災害の最前線で御尽力されている市町村長を始め、公共団体の皆様方におかれましても、治水事業の促進に対して、益々の御支援、御協力を賜りますよう、よろしくお願いを申し上げます。

結びに、本大会の御盛会と、本日御列席の皆様方の御発展、御健勝を心より祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

ご臨席ありがとうございました(順不同・敬称略)

衆議院議員

村岡　敏英
北村　茂男
山口　泰明
井上　信治
櫻田　義孝
井林　辰憲
中谷　　元
小里　泰弘
渡海　紀三朗
小田原　潔
北村　誠吾
竹本　直一
松原　　仁
細田　健一
三ッ林　裕巳
堀井　　学
尾身　朝子
左藤　　章
簗　　和生
三原　朝彦
佐田　玄一郎
長島　忠美
小島　敏文
衛藤　征士郎
神山　佐市
中村　裕之
宮澤　博行
務台　俊介

参議院議員

井上　義行
宮島　喜文
三木　　亨
島田　三郎
豊田　俊郎
堂故　　茂
河野　義博
新妻　秀規

代　理　出　席　（順不同・敬称略）

衆議院議員

鬼木　誠
村井　英樹
中根　一幸
北川　知克
松本　剛明
原田　義昭
山本　公一
伊佐　進一
武田　良太
三ッ矢　憲生
青山　周平
古川　康
野田　毅
望月　義夫
金子　万寿夫
田中　和徳
津島　淳
土屋　品子
勝沼　榮明
あべ　俊子
高市　早苗
渡辺　博道
石破　茂
金子　めぐみ
赤澤　亮正
西村　康稔
佐々木　隆博
小山　展弘
金子　恭之
鈴木　馨祐
長尾　敬
田野瀬　太道
金子　恵美
鈴木　義弘
田村　憲久
森　英介
島田　佳和
新谷　正義
宮内　秀樹
伊藤　渉
大口　善徳
笹川　博義
細田　博之
奥野　信亮
平沼　赳夫
山本　有二
河野　太郎
保岡　興治
江渡　聡徳
中川　郁子
小渕　優子
逢坂　誠二
吉川　貴盛
瀬戸　隆一
冨岡　勉
野間　健
松浪　健太
加藤　寛治
池田　道孝
宮路　拓馬
岸　信夫
野田　聖子
井上　貴博
岸田　文雄
麻生　太郎
寺田　稔
若宮　健嗣
松本　洋平
亀岡　偉民
井野　俊郎
今野　智博
福井　照
茂木　敏充
輿水　恵一
岩田　和親
武村　展英
穴見　陽一
牧原　秀樹
星野　剛士
土屋　正忠
高鳥　修一
梶山　弘志
西村　明宏
谷川　とむ
佐々木　紀
伊藤　達也
伊藤　信太郎
武藤　容治
岩屋　毅
石田　祝稔
八木　哲也
鈴木　俊一
棚橋　泰文
江崎　鐵磨
田中　良生
鴨下　一郎
山田　賢司
長坂　康正
橘　慶一郎
松木　けんこう
木内　孝胤
河野　正美
大塚　高司
古田　圭一
遠藤　利明
田畑　裕明

代　理　出　席　（順不同・敬称略）

参議院議員

磯崎　仁彦
堀井　　巌
足立　敏之
伊藤　孝恵
島村　　大
野村　哲郎
高野　光二郎
野上　浩太郎
藤木　眞也
片山　虎之助
山本　順三
長谷川　岳
二之湯　智
小野田　紀美
長峯　　誠
田名部　匡代
佐藤　信秋
江島　　潔
石井　正弘
酒井　庸行
石井　苗子
片山　大介
吉川　ゆうみ
伊藤　孝江
山本　一太
森　まさこ
井原　　巧
高橋　克法
中泉　松司
山田　俊男
山下　雄平
今井　絵理子
上月　良祐
石井　準一
中西　　哲
宮沢　洋一
アントニオ　猪木
増子　輝彦
こやり　隆史
舞立　昇治
宮本　周司
中西　祐介
大家　敏志
木村　義雄
青木　一彦
丸川　珠代

祝電ありがとうございました　（順不同・敬称略）

衆議院議員

漆原　良夫
尾身　朝子
川端　達夫
木内　均
前原　誠司
牧島　かれん
松本　純
山口　俊一

参議院議員

足立　敏之
佐藤　信秋
佐藤　正久
牧山　ひろえ

意　見　発　表

■ 南富良野町長

池部　彰

ただいま御紹介をいただきました北海道南富良野町の町長の池部と申します。

本日は、今年、8月から9月にかけて北海道を襲った台風による豪雨災害の被災地として意見を申し述べさせていただきます。よろしくお願いをいたします。

さて、南富良野町は北海道のほぼ中央にある旭川、富良野、さらには美瑛という景観のいい、その南側に位置をしております。面積は666km^{2}で、東京23区と同じぐらいの広さがございます。町の面積の9割が森林でありまして、人口は2600人です。

南富良野町を流れる空知川は石狩川の最大の支川で、南富良野町はその最上流部にあります。そして、町の中央に昭和42年に建設をされた直轄多目的ダムである金山ダムがございます。

町の基幹産業は農林業であります。その農産物を生かしたポテトチップスの工場も立地をしております。多くの雇用を生んでおり、町の6次産業化のシンボルとなっているところでございます。また観光産業は自然を生かしたラフティングやウィンタースポーツが盛んであります。かなやま湖の湖畔ではキャンプや湖水祭りが行われ、市街地の中心部に道の駅があります。また映画「ぽっぽや」のロケ地であるJR幾寅駅も人気を博しています。

さて、今年8月には3つの台風が相次いで北海道に上陸をいたしました。さらに台風10号が北海道に接近し、大雨となりました。町内の串内観測所では8月29日から31日の降雨量が515㎜を記録いたしました。これはこの地域の年間降水量の約半分に相当いたします。そして、8月31日未明、空知川が決壊をいたしました。堤防の決壊は2カ所であります。上流側で決壊をした水が農地、市街地に流れ込みました。

映像をごらんください。これは決壊当日の朝6時に撮影されたものです。画面奥から手前左側に流れているのが空知川です。上流で溢れた水が手前側で再び川に合流しています。手前右側に見える白い建物が「JAふらの」のポテトチップスの工場であります。今度は市街地側から見た映像です。今回の洪水では市街地の約3分の1、約130ヘクタールが浸水をいたしました。

続いて、動画をごらんください。今回の浸水被害は、避難所や道の駅、特別養護老人ホーム、障害者自立支援施設などの公共施設や福祉施設をはじめ、農業協同利用施設、商業施設、多数の住宅、家屋の浸水や損壊、農用地の流亡などの被害が生じました。地域住民の生活や地域経済にとりましては、かつて経験したことのない甚大な被害を受けたところであります。

このような状況でありましたが、早目に避難指示を発令したことや、町職員が住民宅を一軒一軒回って避難を呼びかけたこと、また陸上自衛隊など関係機関の迅速な救助支援をいただいたことにより、幸いにも人的被害を出さずにゆむことができました。

私は、災害対策本部の責任者として災害発生前の警戒予防活動から応急対策、復旧など一連の対応に関係機関の協力を得ながら努めてまいりました。けれども、総じて今回の災害について率直に申し上げますと、最大の要因であります気象状況と集中豪雨はもとより、その災害の規模や発生箇所数、範囲においては、本町の防災能力や対応力をはるかに上回る規模の災害であったと受け止めているところであります。

そのような状況の中、政府及び関係各省、関係機関の皆様には、速やかなる救援支援を賜りましたことに厚く感謝を申し上げます。特に石井大臣におかれましては被災地にお越しくださいまして、私ども被災者の声に耳を傾けていただき、速やかな対応をいただきましたことに心から、心から厚くお礼と感謝を申し上げます。

石井大臣の御指示のもと、次の台風が迫る中、空知川の堤防もわずか1週間で早期に緊急復旧をしていただきました。今現在、本復旧に向け国土交通省において工事発注の手続が進められていると伺っているところでございます。

また、金山ダム下流域の自治体の首長をはじめ多くの皆様からの励ましのお言葉、さらには支援物資の提供、義援金の御協力、また延べ5800人を超えるボランティアの皆様方の御支援、本当に復興への力と希望をいただきました。改めて心から、心から感

謝とお礼を申し上げるところでございます。

ここで少し金山ダムの効果について触れたいと思います。今回、浸水被害を受けた市街地は金山ダムの上流に位置をしていますが、ダム下流では大きな浸水被害はありませんでした。

今回の増水により計画降水流量の1.5倍を超える水が金山ダムに入ってまいりました。ダムはほぼ満水となる状況となりました。ダム建設以来、初めて「異常洪水時防災操作」を行いましたが、結果的には金山ダムが大きな治水効果を発揮し、下流住民に被害はありませんでした。

ここで、防災機能の充実強化という視点で、今回の経験を踏まえまして、必要なハード対策とソフト対策について申し述べさせていただきたいと思います。

まずハード面であります。空知川の河川整備の促進が早急に必要であります。決壊した空知川の堤防は昭和43年建設当時、空知川の流水量を毎秒1000トンとして計画をされ、整備されたものでありますが、今回はその流量を大幅に上回り、堤防を越水し、破堤したものであります。災害復旧による築堤と併せて、早急に河川整備計画を見直し、今回の洪水に対応できる治水対策の早急な実施が必要だと思っております。

次に、直轄金山ダムの洪水調節機能の強化とダム湖下流域の治水機能の強化であります。先ほども述べましたとおり、幸いにも金山ダムが大きな効果を発揮し、下流河川の水位上昇による住民への被害はありませんでしたが、今回の想定を超える雨量が現実として発生したことを踏まえますと、具体的には金山ダムの貯水量を増やすなど、洪水調節機能を強化する必要があるのではないかと思うところであります。

更なる空知川流域の安全・安心の確保と流域の発展のために、金山ダムの洪水調節機能の強化、金山ダムの下流域の空知川についても、今回のケースを踏まえて、治水対策の総合的な対応をお願いしたいと思っているところであります。

次に、道の駅の防災拠点機能の強化であります。北海道の東西を結ぶ大動脈であります国道38号線の「道の駅南ふらの」は、年間30万人の方に御利用いただいておりまして、被災当日は国道38号線の狩勝峠などで土砂崩れが発生をし、通行止めとなりましたほか、集落間を結ぶ主要道路も同様に通行不能となりましたので、多くの通行客及び通行車両が町外に出られず、この「道の駅南ふらの」に避難をしていた際に洪水被害に遭われたところであります。

この対策については、道路を管理する北海道開発局と「道の駅の防災拠点化」を図るべく現在、協議を進めているところでございますので、引き続きご支援のほど、よろしくお願いを申し上げるところであります。

次に、ソフト面の対策について申し上げます。空知川については国管理及び北海道管理区域を問わず、水防法に基づく洪水予報河川あるいは水位周知河川に指定されることが必要だと思います。またタイムラインの策定などに御支援のほどをお願い申し上げます。

堤防決壊当日の空知川の増水に際しましては、災害対策本部では、複数の班体制により河川の巡視を強化し、堤防、水位などを監視し、異変に備えるべく土のうづくりなど警戒活動と並行して緊急時の対応に備えていたところであります。その後、金山ダムから上流の空知川については、河川事務所から「水位が切迫した状況である」との連絡を受け、巡視をさらに強化し水位の監視を行っておりましたが、関係機関の今後の降雨量の予測などのご助言をいただき、最終的には、およそ破堤4時間前の午後10時に避難指示の判断をしたところであります。

今回の一連の対応を踏まえまして、より安全に、そして確実に住民へ避難を周知し誘導するために、早期に判断できるよう、国管理及び北海道管理区域を問わず、一本の河川として水位周知河川などの指定が必要です。また防災にかかわる関係機関が、いつ、何を、誰が役割を担うのかについて、事前に策定し共有する防災計画、いわゆるタイムラインなどの策定に関しても御支援のほどをお願いいたすところであります。

以上、必要な対策について意見を申し述べました。今回、南富良野町を襲った水害は、地球温暖化が叫ばれる中、日本全国、どこで起こるかわかりません。本日お集まりの皆様にも治水対策の重要性を改めて御認識をいただきたく、本日の意見発表が参考になればと思う次第であります。私は、町民が早く普段の生活が取り戻せるよう、スピード感をもって復旧・復興に向けて取り組んでいく所存であります。この困難なときこそ住民と手を取り合い、互いに力を合わせて元気な南富良野を取り戻し、さらに飛躍させていきたいと考えているところでございます。

来年、南富良野町と金山ダムは50周年を迎えます。ぜひ多くの皆様に御来町いただき、復興に向けて力強く歩んでいる南富良野町の姿をごらんいただければと思うところであります。

皆様とともに、「太陽と森と湖のまち　南富良野町」でまたお会いすることを楽しみにしつつ、発表を終わらせていただきます。御清聴ありがとうございました。

決　議

■ 決議朗読

岩井國臣副会長

前文は省略させていただきます。

記

一　激甚な災害が頻発している現状に鑑み、災害を未然に防止し、国民の生命と財産を守り、安全・安心かつ豊かで活力のある国土を構築するため、治水事業費を増額させ、根幹的な治水施設の整備を計画的に推進すること。

一　地球温暖化に伴う気候変動により今後益々懸念される豪雨や渇水の頻発、海面の上昇や台風の巨大化等に備え、治水施設の整備を推進するとともに、安定的な水の供給のための水資源開発の推進をはかること。

一　激甚な浸水被害の発生や、床上浸水が頻発している地域においては、再度災害を防止するためにも集中的に事業を実施すること。

一　コスト、工期、環境負荷を抑制しつつ、治水機能の向上及びその機能の維持を図るため、既存ダムを最大限活用したダム再生を推進すること。

一　高度な技術力を必要とする工事や災害時の迅速な対応を必要とする復旧工事等について、当該地方公共団体に代わって国が工事を行うなどの技術的支援を推進すること。

一　「水防災意識型社会 再構築ビジョン」に基づく、ハード・ソフト一体となった防災・減災対策を強力に推進すること。

一　浸水被害の軽減により生産性の向上が図られ、地域経済に対するストックとしての効果を中長期的に発揮する治水事業を重点的に推進すること。

一　切迫する南海トラフ巨大地震、首都直下地震等に備え、河川・海岸堤防及び河川構造物の地震・津波対策を着実に実施すること。

一　堤防等の河川管理施設を適正に維持管理し、機能を持続的に発揮できるよう、施設の補修・更新を戦略的かつ計画的に進めること。

一　河川や水辺の持つ多様な機能や歴史・風土等に根ざした魅力ある良好な河川環境の形成を推進すること。

以上決議する。

平成２８年12月2日

治水事業促進全国大会

平成 28 年度 九州地方治水大会

と　き：平成 28 年 10 月 18 日（火）
ところ：ホテルグランデはがくれ

平成２８年度九州地方治水大会次第

（敬称略）

第１部　記念講演
「想定を超える災害に備える～成富兵庫茂安の思想にならって～」
さが水ものがたり館館長　荒牧 軍治

第２部　治水大会

主催者挨拶	佐賀県知事	山口 祥義
	全国治水期成同盟会連合会会長	陣内 孝雄
大会座長推挙	佐賀県治水砂防・防災協会会長	末安 伸之（みやき町長）
来賓祝辞	佐賀県議会議長	中倉 政義
	国土交通省九州地方整備局副局長	唐木 芳博
講義	国土交通省水管理・国土保全局	
	治水課堤防構造分析官	山下 武宣
	佐賀県農林水産部水産課栽培資源係長	横尾 一成
意見発表	宮崎県県土整備部河川課主幹	戸田 正人
	佐賀市河川砂防課水問題対策室長	栗山 佳寛
水災害セミナー	国土交通省九州地方整備局河川部長	佐藤 克英
大会決議	佐賀県治水砂防・防災協会副会長	岸本 英雄（玄海町長）
次期開催県挨拶	宮崎県県土整備部河川課長	阿佐真一

第1部 記念講演

「想定を超える災害に備える
～成富兵庫茂安の思想にならって～」

さが水ものがたり館館長
荒牧 軍治

講演内容は省略させていただきます。

第２部 治水大会

■ 主催者挨拶

佐賀県知事
山口 祥義

皆様こんにちは。今日は平成 28 年度九州地方治水大会にこのように大勢の皆様方が佐賀にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。そして、陣内会長をはじめ全水連の皆様、来賓の皆様方、お忙しい中お越しいただき、本当にありがとうございます。

この治水大会が佐賀の地で行われるにあたり、非常に今年は意義がある年だなと思っています。岩手の災害で突如発生した濁流に多くの方々がのみ込まれたりと、もういつなんどき、どういう風水害があるかということがなかなか予知できない状況になってまいりました。

私のふるさとは福富という佐賀県の有明海に面したところなんですけれども、どんどんどんどん干拓をして土地を広げていったものですから、あるときには氾濫が起きて、治水に往生したり、あるときは、水不足になったりと、常に水との闘いの歴史でありまして、そういった中で、この地で治水というものについて、改めてどう考えるのかということを、皆様にお集まりいただいて話し合う機会をいただいたということは、非常に我々にとってもありがたいことだなと思っています。

今年、佐賀県は、有田焼が創業400年を迎えました。400年前って、どういう年かなというふうに考えますと、今は真田丸の話を大河ドラマでやっておりますけれども、秀吉さんが朝鮮に兵を出して、当時、李参平さんという陶工を連れて帰って、その李先生が有田の泉山で陶石を発見して、掘り出したのが400年前ということであります。

その400年前は佐賀の治水においてどういう年かというと、先ほどから話が出ていましたが、成富兵庫茂安という佐賀藩の偉人が嘉瀬川の上流に石井樋というものを着工した年から今年が400年なんですね。ということは、そういった有田焼が始まるような年、もうその時から佐賀平野の治水という問題を解決しようとしていた成富兵庫茂安さんはさながらヒーローだったのだろうなと思います。

今回、九州地方整備局のご講演をいただきます。筑後川の支流、城原川にダムをということで、今きちんと検証しながら、前に進み始めているわけですけれども、昔は城原川も野越しといって、洪水のときに水を逃がすようなところがあったりと、そういった工夫が多くなされていまして、400年前からいろんな工事を、自分の頭で考えて、成富さんは本当によくされたなと思います。

そうやって、いつの時代も、水とどういうふうに立ち向かうのかということについては、人の英知をもって闘うしかないのでありまして、それは現在においても変わらないだろうと思います。

そうした中で、九州でも、最近非常に災害が増えてきました。屋久島もそうですし、熊本、大分もそうですが、いろんな災害が予知できないものがある中で、どういうふうに考えていくべきなのかということを、今日これだけの大勢の皆様方でまた勉強していただくという意味で、我々にとってもありがたいなと思っております。

最後になりましたけれども、今日のこの会が実りある会でありますことと、お集まりいただきました皆様方のご健勝を祈念させていただきまして、私の挨拶にかえさせていただきたいと思います。どうもありがとうございました。

全国治水期成同盟会
連合会会長
陣内 孝雄

挨拶は、省略させていただきます。

■ 大会座長推挙

佐賀県治水砂防・
防災協会会長
みやき町長
末安 伸之

■ 来賓祝辞

佐賀県議会議長
中倉 政義

こんにちは。県議会議長の中倉政義でございます。地元、佐賀県議会を代表して一言お祝いを申し上げます。

まずは、本日、九州地方治水大会がここ葉隠の里佐賀において、全国治水期成同盟会連合会会長の陣内孝雄先生をはじめ、全水連、国土交通省の皆様方、そして九州各県から多くの皆様方をお迎えして開催をされますことを心からお喜びを申し上げ、また、歓迎を申し上げます。

そして皆様方におかれましては、常日頃から、あらゆる災害から地域住民の生命、財産を守るために大変な御努力をされておられますこと、このことには心から感謝と敬意を表する次第であります。御承知のとおり、近年は九州地方におきましても、1時間に100ミリを超すような集中豪雨が何度となく襲ってき

ておりますし、また、強い台風も何度となく上陸をしており、多くの被害をもたらしている状況にあります。

また、全国の自然災害の状況を見ましても、大きな変化が起こっているというふうに思っておりますし、河川の流域で生活をする住民の生活を脅かしている、そういった状況にあり、例えば、河川の一番下流では天気が良くても、上流での集中豪雨で一気に流下して、河川の流域では人的被害を及ぼしているということもたびたびあっているような状況でありますし、また、東北、北海道においても、雪が積もって一気には流れない状況が、今は集中豪雨で一気に流下して大きな被害をもたらしている、そういうふうに見受けられるところであります。

そういう中にあって、このような大会を盛大に開催されて、治水の専門家の皆様方が協議をされるということについては大変意義深いものがあろうかというふうにも思っております。

先ほど、佐賀大学の荒牧先生のほうからも、佐賀県が生んだ偉人であります成富兵庫茂安の業績のお話がありましたが、私は伊万里に住んでおりますが、私の地区でも成富兵庫茂安が築いた護岸堤防があり、そしてまた、利水をするためのサイフォンも、今も機能をしているというところもあります。昔の方々、自然と対峙していた方々の知恵と知識をさらに学んでいく必要もあろうかというふうにも考えております。

九州は1つということでありますが、災害が起きたときには、近県でありますから、すぐに支援の態勢を組むことができますし、今大会を契機として、さらに強い絆を結んでいただいて、そして地域住民の生活安全を守るために、そして九州の治水のために、更なる御尽力を賜りますことを私からもお願いするところであります。

最後に、全国治水期成同盟会連合会の皆様方の更なる御活躍を御祈念申し上げて、佐賀大会のお祝いの言葉に代えさせていただきます。本日は誠におめでとうございました。

国土交通省
九州地方整備局副局長
唐木 芳博

本日は、全国治水期成同盟会連合会並びに佐賀県をはじめとする関係各位のご臨席のもと、平成２８年度九州地方治水大会が、このように盛大に開催されましたことを、心からお慶び申し上げます。

また、本日ご列席の皆様方におかれましては、九州地方整備局が進めております治水事業をはじめとする国土交通行政につきまして、平素より格別のご理解とご協力を賜り、深く感謝申し上げます。

ご承知のとおり、我が国は自然災害に対し脆弱な国土条件にあり、近年頻発する大規模な豪雨災害等により、全国各地で尊い人命と多くの資産が失われております。

昨年の鬼怒川の氾濫、平成２４年の九州北部豪雨災害など、激甚な災害が毎年どこかで発生している状況は皆様も肌で感じておられることと思いますが、今年も、８月の台風１０号の影響による北海道・東北地方の大洪水のほか、９月の台風１６号による宮崎県の浸水被害などがありました。

治水対策は、地域の安全･安心を確保するとともに、地域経済に対するストック効果を発揮するうえでも必要不可欠な事業であります。

例えば、佐賀県内においては、本年６月２２日に六角川水系で氾濫危険水位を超過する出水となりました。これは昭和５５年に約５，０００戸が浸水した洪水と同等規模でしたが、その後の河川整備や排水機場の整備により、今回の浸水被害が約５０戸にとどまり、浸水戸数を約１００分の１に軽減したと試算しているところです。

九州地方整備局といたしましても、国民の生命・財産を守るための治水事業は、まさに行政の根幹であることを肝に銘じ、大変厳しい財政状況ではありますが、関係行政機関と連携を図り予算確保に努めているところです。

また４月の熊本地震の対応として、白川、緑川の堤防の本格復旧をはじめ、道路・砂防などインフラの復旧に努め、７月には「熊本地震災害対策推進室」を設置し、体制を確保して対策にあたっております。

これからも地域の方々のご意見を拝聴しながら、今後とも効果的な事業を着実に推進して参りますので、ご列席の皆様方のご支援とご協力を心よりお願い申し上げます。

最後になりますが、伝統ある九州地方治水大会のさらなるご発展と、本日ご列席の皆様方のご健勝を心より祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。

■ 講義

国土交通省
水管理・国土保全局
治水課堤防構造分析官
山下 武宣

「治水行政に関する最近の動向」

内容は省略させていただきます。

佐賀県農林水産部
水産課栽培資源係長
横尾 一成

「日本一のノリ養殖を支える河川の恵み」

佐賀県のノリ養殖の概要とノリ養殖における河川の大切さについて御説明いただきました。

■ 意見発表

宮崎県県土整備部
河川課主幹
戸田 正人

「宮崎県の河川行政について」

宮崎県における河川行政、治水事業等の紹介を基に、治水事業の重要性についての御意見をいただきました。

佐賀市河川砂防課
水問題対策室長
栗山 佳寛

「佐賀市排水対策基本計画について」

佐賀市の排水対策基本計画について、佐賀市の特性、計画の概要、取り組み事例について説明いただき、今後とも排水対策を着実に実行し、浸水に対する安全度を向上させ、市民の満足度を向上させていきたいと発表されました。

■ 水災害セミナー

国土交通省
九州地方整備局河川部長
佐藤 克英

「熊本地震の対応と水防災意識社会再構築の取組みについて」

内容は省略させていただきます。

■ 大会決議

佐賀県治水砂防・防災協会
副会長
玄海町長
岸本 英雄

下記の大会決議案を読上げて提案の後、大会決議が承認されました。

記

1　災害を未然に防止し、安全で安心な国民生活の確保を図るため、事前防災・減災対策を含む治水対策に充てる財源を確保し、治水事業費の増額を図ること。

２　全国的に大規模水害が頻発している現状に鑑み、被災施設の復旧にとどまらず、再度の被災防止のための改良を十分にできるよう、災害復旧関連予算等での対応の拡充を図ること。

３　九州地方の現状を踏まえ、安全で安心できる国土を形成し、潤いとやすらぎのある水辺空間を創出するとともに、活力ある地域づくりに資するため、特に次の事項を強力に推進すること。

(1)　関係機関が連携し、「水防災意識社会再構築ビジョン」に基づく地域のハード・ソフト対策の一体的・計画的な推進

(2)　災害を予防し、地域社会の安全・安心を確保するための対策として、堤防やダム等の計画的な整備促進

(3)　平成２８年熊本地震や、近年頻発する水害、土砂災害に対する災害復旧関連事業の着実な推進

(4)　大型化する台風に備えた高潮対策の推進

(5)　水の安定供給や河川の維持流量確保のためのダム等の整備促進

(6)　火山活動や地震・津波浸水に対する安全確保のための防災事業の推進

(7)　堤防・護岸、水門・樋門、ダム等の既存施設の機能を確実に発揮できる適切な維持管理や、老朽化した施設の計画的な補修・更新の推進

(8)　潤いとやすらぎのある水辺空間の創出に資するための施策の推進

(9)　災害発生時の被害の最小化と迅速な復旧のため、国による広域的かつ機動的な危機管理対策の充実

(10)　治水事業の重要性、緊急性と地方自治体の財政の現状に鑑み、地方への財政措置に対する特段の配慮

(11)　地域経済に対するストック効果を発揮する治水関連事業の推進

■ 次期開催県決定

宮崎県県土整備部河川課長
阿佐 真一

次回開催県の宮崎県から、御挨拶いただきました。

平成28年度 中部地方治水大会

と　き：平成28年10月20日（木）
ところ：ウィルあいち

平成28年度中部地方治水大会次第

（敬称略）

第１部　中部地方治水講演会
「治水行政に関する最近の話題」
国土交通省水管理・国土保全局治水課長　泊　宏
「中部地方の治水事業に関する最近の話題」
国土交通省中部地方整備局　河川部長　児玉 好史

第２部　記念講演
「豪雨災害と三条市の防災対策～災害に強いまちづくりを目指して～」
新潟県三条市長　國定 勇人
「近年の気象災害について」
気象予報士　國本 未華

第３部　治水大会

開会の辞	愛知県河川海岸協会副会長	榊原 康正（西尾市長）
主催者挨拶	愛知県副知事	中西 肇
	全国治水期成同盟会連合会会長	陣内 孝雄
	愛知県河川海岸協会会長	中野 正康（一宮市長）
来賓祝辞	愛知県議会副議長	森下 利久
来賓紹介、祝電紹介		
座長推挙	愛知県河川海岸協会会長	中野 正康（一宮市長）
意見発表	「市町村長のビデオレターによる意見発表」	
大会決議	愛知県河川海岸協会副会長	山下 政良（田原市長）
次期開催県挨拶	長野県建設部河川課長	新家 智裕
閉会の辞	愛知県建設部長	市川 育夫

第1部 中部地方治水講演会

「治水行政に関する最近の話題」

国土交通省水管理・
国土保全局治水課長
泊　宏

「中部地方の治水事業に関する最近の話題」

国土交通省中部地方整備局
河川部長
児玉 好史

第２部 記念講演

「豪雨災害と三条市の防災対策～災害に強いまちづくりを目指して～」

新潟県三条市長
國定 勇人

三条市は、平成16年と平成23年に大きな水害に遭っています。総じて、1回目の水害後のハード対策、ソフト対策が功を奏す形で2回目の水害の被害を最小限に食い止めることができたと思っています。今日は三条市ではどんな対策を講じてきたかということをご紹介します。

1回目の水害時には、わずか21.9%の人しか避難勧告の発令をご存知でなかった。その後情報伝達体制を整備し、2回目の水害の後の調査では93.3%の方が情報を受け取りました。着目すべきは、どんな媒体で避難情報を手に入れたかというと圧倒的に屋外スピーカーによる防災無線でした。私は常々職員に言っているのですが、防災無線を鳴らすと、何を言っているのか分からないという苦情の電話が殺到しますが、それでいいんだと。つまり、よく分からないけど何か外で鳴っていることに気付いている時点で、すでに防災無線の役割を十二分に発揮しているわけです。あとはご自身の、まさに自助の範疇でラジオやテレビをつければいいわけです。

次に、私どもが作っている水害対応マニュアルでは、全ての課の、全ての職員の名前が付いた中で3時間以内にやらなければいけないこと、6時間以内にやらなければいけないこと、12時間以内にやらなければいけないこと、が列記されています。これは、毎年4月1日に新たな担当職員の名前を入れ込んだ水害対応マニュアルを配属された職員に見せるという作業が必ず起こってくるということです。このことで風化を防ぐ役割を果たすことができているのかなと思っております。

難しいのは、公助と共助をどう結び付けるかということです。1回目の水害で亡くなられた方9名のうち7名が高齢者でした。その後私たちは災害時要援護者の名簿を作成しましたが、当時その対象人数は4,842人でした。市の職員が消防保育士含め1,100人で、どうやって2時間のリードタイムの中で5,000人もの災害時要援護者を救い出すか、しかし名簿に載せた以上、一人ひとりに至るまで命を守り切るのだということで、今様々な改善を試みています。1点目は絞り込み。本当に必要な人について、約半分にまで絞り込みました。2点目は絞り込まれた要援護者お一人お一人を社会のあらゆる層を使い救い出そうということ。名簿の一人ひとりに対して、Aさんは民生委員さんが情報提供するだけでいいですよ、Bさんは介護サービス事業所が救わなければいけないですよ、ということを徹底しています。市内に81の介護サービス事業所がありますが、年2回訓練して、実際に避難誘導できたかどうかのフィードバックも全部取ります。こうしたことを淡々粛々とルーティン化することが、平常時に求められると思っています。

最後にもう1つ申し上げたいのは、大きな水害後の状態を、平常時から議論しておいた方がいいということです。例えば全国から災害の物資が届きます。そうすると集積場所から20も30も存在している避難所に対して、定時定路線でしっかりとおにぎりを届ける、水を届ける、様々な物資を届けるということをその瞬間から組立てなければいけません。こうした点はほとんどの市町村で欠落してしまいますが、本当に重要なことです。

「近年の気象災害について」

気象予報士
國本 未華

第３部 治水大会

■ 主催者挨拶

愛知県副知事
中西 肇

私ども愛知県におきましては現在災害から県民の皆様を守るために、近い将来確実に起こるとされております南海トラフ地震及び、これに対する津波対策につきましては、平成27年度に策定いたしました第3次地震対策アクションプランに基づきまして堤防などの整備補強などに取り組んでいるところでございます。また、新たな都市型水害対策の契機となりました東海豪雨から16

年が経過したところでございます。本県はこれまで水害から住民の皆様の財産、生命を守るため、河川改修や、堤防の整備などハード対策はもちろんのことでございますが、住民の避難に結び付けるソフト対策も着実に進めてまいったところでございます。

しかしながら、近年時間雨量100㎜を超えるようなゲリラ豪雨が頻発してございます。こうした中、昨年12月に国におかれましては水防災意識社会再構築ビジョンを策定されまして、国県市町村が減災のための目標を設定いたしまして、ハード・ソフト対策を一体的、計画的に推進するというふうにされたところでございます。本県におきましてもこの施策に積極的に参画いたしまして、より一層の減災に努めてまいりたいと考えているところでございます。

本日は治水事業に携わる皆様方が一堂に会しまして、水害の悲惨さを共有し、そして今後の治水事業の推進に向けて決意を新たにするということは、誠に意義深いことでございまして、本大会が今後の治水事業にとりまして実り多いものとなることを心から期待するところでございます。

全国治水期成同盟会連合会
会長
陣内 孝雄

挨拶は省略させて頂きます。

愛知県河川海岸協会会長
中野 正康（一宮市長）

今日は外が秋晴れで、大変気持ちのいい一日でございます。私ども一宮市の木曽川沿いに138タワーパークと申しまして、138を一宮にかけておりますけど、138mのタワーがございます。木曽川沿いの綺麗な綺麗な公園がございます。今日のような日は、その公園で木曽の川の流れを見ながらビールとは言いませんけれども、コーヒーでも飲んだら本当に気持ちいい一日だと思うのですけど、私ども人類が生きるうえでなくてはならない水をもたらしてくれております河川であったり、海の恵みに感謝しながら私たちとしても行政を進めていきたいと思っております。そうした河川や海岸も時として我々人類に対して牙を剥く時がございます。昨年から市長をやらせていただいておりますが、忘れもしない9月9日、台風が上陸するということで、9月議会の最中でしたけど1日お休みさせていただきまして、最悪に備えようということで準備をとりました。そうしましたら、愛知県に台風が上陸したのですけど幸いなことに愛知県では大した被害がないという結果でございました。よく言う備えあれば憂いなしということで、我々一市町村の首長ができることは限られていますけど、ハードの対策、インフラ基盤整備では愛知県や国、国土交通省さんを始め、色んな関係機関と連携をすることで、市民の安心安全をしっかりと守っていきたいと考えております。

まだまだ治水事業が足りていないところがございます。先日も、関係の首長さんたちが集まり、愛知県や国土交通省、いろいろな所に対するお願いや要望を申し上げました。我々愛知県河川海岸協会は、住民の一番最前線で市民の皆様の安心安全を守っております首長さんたちが集まって、一緒になって県や国に対して地域の実情をご説明して、要望を申し上げて実現していただくという場として機能しているところでございます。今日の大会を通じまして、必要な治水事業をしっかりとやっていただきたいということで、治水事業の予算獲得の応援団、更にもっと理解者を増やすきっかけとなる大会となることが最も有意義ではないかと考えておりますので、皆様方のこれからも引き続きのご理解とご支援とご協力をお願い申し上げまして、私からのご挨拶とさせていただきたいと思います。

■ 来賓祝辞

愛知県議会副議長
森下 利久

皆様方におかれましては治水事業の必要性の周知徹底を図るとともに、事業を強力に推進し、災害に強い町づくりに邁進されておりますことは誠に心強い限りでございます。私ども愛知県議会といたしましても、県民が安全安心で快適に暮らせる社会基盤づくりに全力を挙げて取り組んでまいる所存でございます。どうか皆様方に

おかれましては、この大会を機に更に連携を深められ、より一層の効率的、効果的な治水事業を推進していただき、地域住民の安心安全な生活の実現に向け、今後とも尽力を賜りますようお願い申し上げます。

■ 意見発表
「市町村長のビデオレターによる意見発表」

愛知県豊橋市長
佐原 光一

豊川の下流は先人の知恵による「霞」の機能で本線の決壊を防いでいるが、3、4年に1度は水がつく。設楽ダム完成のあかつきにはそういった危険からも逃れることができる。伊勢湾台風後の対策工事で今の海岸堤防があり古いものでは60年近くたっている。老朽化対策が必要。

愛知県岡崎市長
内田 康宏

市の中心を流れる乙川でリバーフロント事業を進めており、川の美しい景観と歴史・文化施設をつなげ観光産業を育成していきたい。平成12年の東海豪雨、平成20年の8月末豪雨の時には、家財道具や電化製品、畳を運び出すのも水がしみ込んでしまいまして何倍もの重さで悲惨な状況だった。

愛知県春日井市長
伊藤 太

平成12年東海豪雨、平成23年台風で庄内川、八田川で水害。住民の生活はもちろん、日本のモノづくりの中心地域である愛知県の産業界、製造業等についての被害も甚大なものとなる。

愛知県刈谷市長
竹中 良則

東海豪雨当時市の部長職として、避難所開設の指揮者として対応をしていたが、雨水が濁流となって低い土地の家屋を襲った。現在、特定都市河川浸水被害対策法に基づき刈谷市雨水対策マスタープランを推進している。

愛知県豊田市長
太田 稔彦

矢作川は中心市町地を流れているがそこで天然のアユが釣れる。ミズベリングプロジェクトなど川を活かした町づくりを進めている。一方で最大降雨で20mの浸水が1週間も続くという想定。川の破堤によりストック効果が一夜にして無になり、産業活動へ大きな影響を及ぼす。

愛知県稲沢市長
大野 紀明

平成6年の異常渇水では人の命のもととなる農作物への水が不足した。木曽川導水路の事業は不可欠。南海トラフ地震がくれば堤防の液状化が非常に心配。木曽川の堤防が消えないように災害対策をお願いしたい。

愛知県新城市長
穂積 亮次

近年死傷者を出すような大きな河川の被害はなく防災意識の啓発をしていかなくてはいけない。タイムラインにも真剣に取り組んでいきたい。

愛知県東海市長
鈴木 淳雄

市では今4,300㎥の姫島調整池を建設しており、地域の皆さんや企業と水防訓練を実施している。予算が厳しい時だが予算拡大を強く要望したい。

愛知県海部郡蟹江町長
横江 淳一

伊勢湾台風の記憶は鮮明に残っている。過去の教訓として伝えてかなければならない。海部郡全体が海抜0m以下、当町は平均でマイナス2mで排水機の整備が不可欠。地震で堤防が液状化して水害が来ることを恐れ、避難対策、防災訓練を行っている。

岐阜県安八郡安八町長
堀 正

9.12長良川水害から40年、長良川、揖斐川の治水安全度は飛躍的に向上した。これからもお力添えをお願いしたい。

岐阜県海津市長
松永 清彦

海津市は過去に幾度も水害に悩まされてきた。揖斐川の堤防の未改修部分の早期完成、また、長良川、揖斐川の天端の舗装もお願いしたい。

長野県木曽郡大桑村長
貴舟 豊

全国的に頻発する災害から住民の生命、財産を守り、大桑村が安心安全な住み続けたい村であり続けるために、予防的な治水、砂防対策の計画的な推進をお願いいたしたい。

静岡県伊豆の国市長
小野 登志子

世界遺産、韮山反射炉には70万人ものお客様がおみえになりました。これも、これまでの治水対策のおかげと心から感謝。引き続き治水関係予算の確保と河川整備の促進をお願いしたい。

■ 大会決議

愛知県河川海岸協会副会長
山下 政良（田原市長）

大会決議文は省略します。

■ 次期開催県挨拶

長野県建設部河川課長
新家 智裕

挨拶は省略させて頂きます。

平成28年度 東北地方治水大会

と　き：平成28年10月28日（金）
ところ：ザ・セレクトン福島

第56回 東北地方治水大会 次第

（敬称略）

第1部　大会
　開会

主催者挨拶	福島県副知事	鈴木 正晃
	全国治水期成同盟会連合会会長	陣内 孝雄
来賓祝辞	参議院議員	増子 輝彦
	福島県議会 土木委員会委員長	矢吹 貢一
	国土交通省東北地方整備局長	川瀧 弘之
来賓紹介・祝電披露		
治水事業概況説明	国土交通省水管理・国土保全局治水課長	泊　宏
	国土交通省東北地方整備局河川部長	畠山 愼一
意見発表	福島県柳津町長	井関 庄一
大会決議	福島県治水協会理事 福島市長	小林　香
次期開催県決定及び挨拶	山形県県土整備部参事（兼）河川課長	高橋 英信

第2部　記念講演
　「福島の美しい自然の魅力を世界に伝えよう」
　　株式会社 SML 代表取締役　熊坂 仁美
　閉会

第1部 大会

■ 主催者挨拶

福島県副知事
鈴木　正晃

皆様、こんにちは。福島県副知事の鈴木でございます。今日は内堀知事に代わりまして御挨拶をさせていただきます。

本日、第56回東北地方治水大会をここ福島で開催するに当たり、東北各県からこのように多くの皆様に御出席を頂き、厚く御礼を申し上げます。皆様の御来県を心から歓迎いたしますとともに、日頃から本県の復興に多大なる御支援、御協力を頂いておりますことに、改めて深く感謝申し上げます。

また、さきの台風10号などに伴う豪雨災害により、不幸にしてお亡くなりになられた方々に深く哀悼の意を表しますとともに、被災された皆様に心からお見舞いを申し上げます。

東日本大震災から5年半が経過いたしました。この間、国内外からの温かい御支援と県民の懸命な御努力により、インフラの復旧を始め、福島の未来を拓く様々な拠点施設の整備が進展するなど、本県の復興は着実に進んでおります。

しかしながら、東北地方では、昨年九月の関東・東北豪雨や、今年8月の台風10号に伴う豪雨など、毎年のように記録的な大雨に見舞われ、各所で住宅や田畑の浸水、道路を始めとするライフラインの寸断が発生するなど、大規模な豪雨災害の発生リスクが非常に高まっております。

このような大規模災害に対応するためには、堤防やダムの整備を始めとしたハード対策の推進はもとより、避難情報の伝達や、浸水想定区域の周知など、住民避難を支援するソフト対策を併せた総合的な対策を推進していく必要があります。

福島県といたしましても、皆様との連携をより一層緊密にし、安全・安心な生活環境の確保に向け、治水対

策の推進に全力で取り組んでまいりますので、皆様には、引き続き、御支援を頂きますようお願い申し上げます

結びに、本大会を契機として、治水事業の一層の進展と、東北地方の更なる発展が図られますよう御祈念申し上げますとともに、御列席の皆様の御健勝と御活躍を心からお祈り申し上げ、挨拶といたします。

平成28年10月28日 福島県知事 内堀雅雄 代読でございます。本当に今日はありがとうございます。

全国治水期成同盟会
連合会会長
陣内　孝雄

挨拶は省略させていただきます。

■ 来賓祝辞

参議院議員
増子　輝彦

皆さん、こんにちは。ただいま御紹介を賜りました参議院議員の増子輝彦でございます。

今日、第56回の東北治水大会が、ここ福島で盛大に開催されましたことを心からお祝いを申し上げる次第でございます。久しぶりに陣内会長さんにはお会いをさせていただきまして、御壮健で何よりでございます。これからも治水事業の推進のために大いに御活躍をいただき、また、御指導を賜りたいと思っております。よろしくお願いを申し上げたいと思います。

さて、日頃は大変皆様方には、この治水事業にあたりましては、推進のために大いに御尽力をいただいていることに、改めて私からも感謝と御礼を申し上げたいと思います。

本年8月の台風10号、初めて太平洋岸から本土に上陸をしたという大変な災害でありました。いまだ十分な復旧ということにはなっておりませんが、一日も早い復旧・復興を心から願いながら、犠牲になられた方々に改めてこの場所から御冥福をお祈り申し上げると同時に、被災になられた方々に心から御見舞いを申し上げる次第でございます。

御案内のとおり、昨今、ゲリラ豪雨、あるいはさまざまな水害等々、本当に多くの災害が発生しているわけであります。これも地球温暖化による気候変動というものを含めて、さまざまな課題が山積をしているわけであります。私どもとしては、しっかりとこれらのことを考えながら取組を十分にしていかなければならない、そんな思いを強く感じているところでございます。

特に、治水事業は、国民の生命と財産を守ること、あるいは経済活動をしっかり支えていくということで、欠かすことのできない大変な国土保全の事業であります。そして、減災・防災に努めていかなければならない私どもにとっても、先ほど会長からもお話がありましたとおり、しっかりと予算の獲得もしていかなければならないわけでございます。

私も、今、参議院の国土交通委員長を拝命いたして、その任に就いておりますが、こういった問題については、与野党の壁を乗り越えて、一丸となって、これからの国土保全のために、防災・減災のために、しっかりと取り組んでいかなければならない、そんな強い思いを痛感しているわけでありまして、しっかりとこのことに取り組んでまいりたいと思っております。

また、本県の事業も、ただいま鈴木副知事からも御報告がありましたとおり、あの大震災・原発事故から5年7カ月が経過をいたしたわけであります。いまだ9万人近くの方々が県内外に避難生活を強いられているという現状、私どもも一日も早い福島の復興・再生に全力で当たっていかなければならない、このことが私たちに与えられた使命であり責任だと思っております。このことについても、オール福島、オールジャパンで、しっかりと取り組んでいかなければならない、その覚悟をもってこれからも全力で頑張ってまいる覚悟でございます。

こういう状況の中で、やはり、水害、それぞれの地域においても、復旧・復興、あるいは河川管理・維持、あるいは堤防等の老朽化対策、耐震対策や津波対策の充実、ハザードマップやタイムラインの整備、「水防災意識社会再構築ビジョン」に伴っての、これからハード・ソフト一体となった防災・減災対策にも取り組んでいく覚悟でございます。

どうか、今日おいでの皆様方には、それぞれの立場で、この国土保全、国民の生命と財産を守り、そして、それぞれの地域防災のためにいっそうのご努力を賜りますよう心からお願いを申し上げる次第でございます。

今日、後ろにずっとパネル等もありますけれども、これだけの厳しい環境の中で今日まで頑張ってこられた皆様方に心から感謝と敬意を表しながら、重ねて、私も国土交通委員長として全力で当たってまいりますことをお

誓いを申し上げると同時に、結びに、全国治水期成同盟会連合会のますますの御発展と、ここにおいでの皆様方の御健勝とご活躍を心からお祈り申し上げまして、増子輝彦のお祝いの御挨拶に代える次第でございます。本日は誠におめでとうございます。

福島県議会
土木委員会委員長
矢吹　貢一

皆さん、こんにちは。第56回東北地方治水大会の開催にあたり、地元福島県議会を代表してお祝いを申し上げます。

本日は、東北各地から本県へお越しいただき誠にありがとうございます。本会議の開催をお喜び申し上げますとともに、皆様の御来県を心から歓迎を申し上げます。

また、皆様には、日頃から治水事業の積極的な推進を通し、安心・安全で快適な生活環境の実現と、東北地方の振興・発展に多大なる御尽力を賜っており、この機会に深く敬意と感謝の意を表する次第であります。

東日本大震災から5年7カ月が経過いたしました。この間、国土交通省並びに東北地方の各自治体の皆様からさまざまな御支援をいただき、本県は復興・再生に向けて着実に前進してきており、この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。

さて、近年、地球温暖化等を原因として、台風の大型化や局地的な集中豪雨等が多発する傾向にあり、東北地方でも今年度は岩手県などで甚大な台風被害が発生いたしました。また、本県においても、平成23年7月の新潟・福島豪雨や、昨年9月の関東・東北豪雨などにより、県内各地で甚大な被害が生じており、地域住民の安全・安心を確保するための防災・減災対策が重要な課題となっております。このような中、治水事業は、水害から住民の尊い生命と貴重な財産を守り、豊かで安全な東北を築くために極めて重要な役割を担うものであり、今後一層の事業推進が強く求められております。

福島県議会といたしましては、震災からの力強い復興はもとより、地域が必要とする良質な社会資本の整備に総力を挙げて取り組んでまいる考えでありますので、どうか皆様におかれましても、安全で安心な国土づくりにさらなる御尽力を賜りますようお願いを申し上げます。

結びに、本大会の御盛会と、御参会の皆様方の今後ますますの御健勝と御活躍、そして、東北地方の限りない発展を祈念いたしましてお祝いの言葉といたします。

平成28年10月28日 福島県議会議長 杉山純一 代読、福島県議会土木委員会委員長 矢吹貢一でありました。本日の治水大会の開催、誠におめでとうございます。

国土交通省
東北地方整備局長
川瀧　弘之

御紹介いただきました、東北地方整備局の川瀧です。御列席の皆様方には、普段から国土交通行政全般、東北地方整備局の事業の推進にあたりまして、大変、御支援、御理解をいただいていること、この場を借りて御礼申し上げたいと思います。また、国会議員の先生方におかれましても、東北地方整備局の事業をいつも面倒を見ていただいております。この場を借りて御礼を申し上げたいと思います。

今の御挨拶にあったように、今年は8月30日に岩手県のほうで大きな災害が起こってしまいました。ちょうど1年前の大会に私も出ていたのですけれども、1年前は宮城の大崎市を中心に大きな災害が起こりました。やはり、ずいぶん水害がここのところ頻発、あるいは激甚化しているなと思います。引き続き、ハード・ソフト両面の政策を組み合わせた防災・減災対策をしっかりと推進していきたいと思います。

昨年の関東・東北豪雨を受けまして、都道府県・市町村が一緒になって、住民の方が避難するソフト対策を含めた計画、5箇年計画なのですけれども、それを策定することにしております。国の管理する河川については、10月、今月初旬に完成をいたしました。引き続き、県の管理されている河川についても同様の取組を拡大しているところでございます。また、高齢者施設などの要介護者施設を対象にした洪水避難に関する説明会なども実施をしていこうということで考えてございます。

住民の皆さんが安全・安心に暮らしていけるために、あるいは人命を守るための対応、これは市町村、県、国、これらが連携して進めることが最も大事だと思っております。引き続き関係各位の御支援、御協力をお願いしたいと思います。

結びに、今回、この大会の成功と、御臨席の皆様方の御健勝、御活躍を祈念したいと思います。本日は大変おめでとうございます。

■ 座長推挙

福島県治水協会会長
小野町長
大和田　昭

■ 治水事業概況説明

国土交通省
水管理・国土保全局
治水課長
泊　宏

「治水行政に関する最近の動向」についてご説明いただきました。

国土交通省
東北地方整備局河川部長
畠山　愼一

「東北地方の近年の洪水の状況と、現在の東北地方(主に直轄河川)の取組」についてご説明いただきました。

■ 意見発表

柳津町長
井関　庄一

平成23年7月の新潟・福島豪雨による被災と復旧状況、その後の河川整備事業への着手等の経験をもとに、計画的な治水事業の重要性について意見発表いただきました。

■ 大会決議

福島県治水協会理事
福島市長
小林　香

大会決議文は省略させていただきます。

■ 次期開催県決定及び挨拶

山形県県土整備部
参事兼河川課長
高橋　英信

次期開催県となる山形県よりご挨拶いただきました。

第２部 記念講演

株式会社ＳＭＬ
代表取締役
熊坂　仁美

「福島の美しい自然の魅力を世界に伝えよう」というテーマで、株式会社 SML 代表取締役 熊坂仁美様よりご講演いただきました。

平成28年度 中国地方治水大会の概要

と　き：平成28年11月8日（火）
ところ：とりぎん文化会館 小ホール

次　　第

（敬称略）

開会宣言	鳥取県米子市長	野坂 康夫
主催者挨拶	鳥取県知事	平井 伸治
	全国治水期成同盟会連合会長	陣内 孝雄
来賓祝辞	鳥取県議会副議長	藤縄 喜和
	国土交通省中国地方整備局長	丸山 隆英
来賓紹介		
大会座長推挙	鳥取県湯梨浜町長	宮脇 正道
治水事業概要説明	国土交通省水管理・国土保全局治水課	
	堤防構造分析官	山下 武宜
	国土交通省中国地方整備局河川部長	若林 伸幸
記念講演	静岡大学防災総合センター教授	牛山 素行
鳥取県中部地震の概要と対応	鳥取県県土整備部長	山口 真司
意見発表	島根県津和野町長	下森 博之
	鳥取市長	深澤 義彦
大会決議	鳥取県岩美町長	榎本 武利
次期開催県の決定	広島県土木建築局河川課参事	樋口　稔
閉　会		

■ 開会宣言

鳥取県
米子市長
野坂 康夫

本日は中国地方治水大会に中国各県から多数の皆様にお越しをいただき、開催することができましたことを地元として心より感謝申し上げたいと思います。

このたび、10月21日午後2時7分に鳥取県中部において、大地震がございました。昨日の段階で、1万802棟の家屋被害が広がっております。今後、まだ被災家屋は増えるだろうと思われます。これに当たりまして、中国地方の各県から、例えば罹災証明を出すという仕事がありますが、業務に必要な建築等に明るい方々や、あるいは税に明るい方々を市町村と共同して送っていただいたりしております。また、さまざまな物資、ボランティアなど、関係の皆様にお世話になっておりますこと、感謝を申し上げます。国土交通省からもTEC-FORCEの派遣や、屋根のブルーシート張りに必要な資材の御提供をいただきました。

実はまだ、災害の復旧、復興は進んでいる真っ最中でございます。地元としては、いち早く安心できる暮らしを取り戻すべく、今、最大限の努力を市町村、地元の企業や団体と一緒になり、取り組んでいるところであります。ぜひ多くの方々の変わらぬ御支援と

■ 主催者挨拶

鳥取県知事
平井 伸治

御協力を賜りますようお願いを申し上げたいと思います。

河川につきましては、最近、雨の降り方が変わってきたと思います。先般、岩手で大災害がございました。岩手の達増知事が、先般、私どものところに来られましたときに、災害の状況もお伺いしました。私自身も津波関連でお伺いをしたときに行ったような施設も被災していることなどをお伺いし、やはり水害の規模の大きさ、恐ろしさというのを非常に感じたところであります。

鳥取県内でも、平成19年には時間雨量100ミリを超えるような集中豪雨がございました。こういう集中豪雨の場合は、すぐに小さな河川があふれてしまう。ですから、従来のような台風災害のようにじわじわと水位が上がっていくということで予測できるようなものとは大分違った形態が出てきています。

鳥取県でも、リエゾンをあらかじめ派遣するとか、いろいろと土砂災害の情報の把握、その共有などを図るとか、いろいろな対策を進めてきたところでございますが、多分これには終わりはないと思います。

今日パリ協定につきまして、国会のほうの審議が終わると思いますが、私たちは異常気象に対して対処できるような治水能力を高めていかなければなりません。そういう意味で、皆様とともに、この分野、ぜひとも注力をしてまいりたいと思いますので、よろしく御支援を賜ればと思います。

さて、昨日、松葉ガニが初水揚げになりました。初競りで、何と1杯、130万円というカニも出ました。もっと安い、リーズナブルなカニがたくさんあります。お宿のほうも風評被害でたくさん余っております。

ご覧いただきますように、鳥取は元気でやっております。ぜひ、こうした被災地にも、皆様のほうから温かい目を向けていただきまして、ぜひ御利用、御活用、また食べておいしいところ、見て楽しいところ、温泉も楽しんでいただければ、ありがたいと思います。

今大会の御成功をお祈り申し上げますとともに、災害のない、安全・安心の中国地方が訪れることを願いまして、私からの挨拶にかえさせていただきます。本当にありがとうございました。

全国治水期成同盟会
連合会会長
陣内 孝雄

挨拶は省略させていただきます。

■ 来賓祝辞

鳥取県議会
副議長
藤縄 喜和

皆さんにおかれましては、日ごろから治水事業を通して、国土の安全のために御尽力をいただいております。まずもって、感謝と御礼、敬意を表したいと思っております。

先ほど、知事のほうから地震のお話がありました。大変な被害でありますけれども、中国5県の皆様、そして国土交通省の皆様から心強い御支援を賜っておりまして、この場をお借りして厚くお礼を申し上げたいと思っております。

河川におきましては、昨日現在で11カ所、護岸の変状がありましたけれども、決壊、氾濫等はなく、また死者もなく、その面では不幸中の幸いかなと思っておるところでありますが、何よりも、予定どおりこの大会が開催できましたことを関係者の皆様にお礼を申し上げ、心から喜びたいと思っております。

私から申すまでもありませんけれども、この中国地方は土壌の関係から非常に水害、土砂災害が起きやすい地域となっております。今年の6月23日にも広島県福山市で5つの河川が決壊、氾濫し、1,700軒の浸水もあったということでありまして、被災された皆様に、お見舞いを申し上げたいと思っております。

そうした中で、今、この国を治めるという歴史的なことを思うときに、水を治める者が国を治めるという歴史の中で、この国土の発展は、治水事業なくして国土形成ができないと私も認識いたしておるところであります。本日、御参会の皆様のお力で、さらなる国土の充実、発展に努めていただければ、ありがたいと思っております。我々議会といたしましても、地域住民のために、安全・安心の地域づくりに努めてまいりたいと思いますので、どうか、今日お越しの皆さんの御指導を引き続きお願いしたいと思っております。

最後になりましたけれども、御参会の皆様のますますの御発展と御健勝、そしてこの大会が意義あるすばらしい大会になることを心から御祈念申し上げまして、御挨拶とさせていただきます。おめでとうございました。

国土交通省
中国地方整備局長
丸山 隆英

本日は、中国地方治水大会の御盛会を心からお喜びを申し上げますとともに、平素から治水事業の推進に多大な御支援、御協力を賜り、厚く御礼を申し上げたいと思います。

まずもって、先ほど聞いておりますように、去る10月21日に鳥取県中部を震源とする大きな地震が発生をいたしました。幸い大きな、人命を損なうような大きな被害にはつながらなかったわけですけれども、今もって避難をされている方々もいらっしゃいます。国土交通省といたしましては、全力を挙げて、地域の復旧に努めてまいりたいと思っております。

さて、御承知のとおり、我が国は多様な自然災害が頻発する極めて脆弱な国土条件にありまして、特に近年、雨の降り方が極地化、集中化、激甚化しております。中国地方におきましては、梅雨前線が活発化した影響で、6月に福山市内で豪雨による300棟余りの浸水被害が発生いたしました。また、一昨年の8月20日に発生いたしました広島豪雨災害では、大変多くの方々が被害を受けられまして、関連死の方を含めて77名の尊い命が失われところでございます。さらに、中国地方ではございませんけれども、8月末には岩手、北海道での、昨年9月には関東、東北地方での豪雨により甚大な被害が発生したことも記憶に新しいところでございます。今後も気候変動に伴う水害、土砂災害の頻発、激甚化が懸念されており、危機感を持って水害、土砂災害対策などに取り組まなければならないと認識しているところでございます。

こうした状況の中で、国土交通省では水防災意識社会再構築ビジョンとして、全国の直轄河川とその氾濫により、浸水のおそれのある市町村におきまして、水害対策を進めております。この取り組みの契機となったのは、昨年9月の関東・東北豪雨による鬼怒川堤防の決壊でございます。このため、洪水氾濫を未然に防ぐ対策を着実に推進するとともに、地域での一体的、計画的に浸水対策を実施する取り組みを国管理河川で引き続き強力に推進し、都道府県管理河川への拡大を加速してまいります。具体的には、河道掘削など、洪水氾濫を未然に防ぐ対策の着実な推進を図るとともに、スマートフォンを活用した水位情報の住民への伝達など、住民目線のソフト対策への転換など、ハード、ソフト一体となった対策を重点的に実施してまいります。

中国地方整備局管内におきましても、これらの対策を計画的、一体的に進めるため、現在、河川管理者、都道府県、市町村などから成る減災対策協議会を設置し、洪水に備えるハード・ソフト対策をスピード感を持って推進し、中国地方整備局の総力を挙げて、地域の安全・安心の確保に努めてまいります。

また、これらの取り組みを着実に進めていくため、平成29年度の予算編成に向けて、必要な予算の確保に努めてまいる所存でございますが、皆様方のますますの御支援、御協力が不可欠と考えておりますので、何とぞよろしくお願いをいたします。

最後になりましたが、中国地方が安全・安心で活力ある地域として、ますます発展するとともに、本日御列席の皆様方の御健勝、御多幸を心より祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。本日はおめでとうございます。

■ 大会座長推挙

鳥取県
湯梨浜町長
宮脇 正道

■ 治水事業概要説明

国土交通省
水管理・国土保全局
堤防構造分析官
山下 武宜

「治水行政に関する最近の動向」
御説明内容は省略させていただきます。

国土交通省
中国地方整備局
河川部長
若林 伸幸

「中国地方の治水事業について」
御説明内容は省略させていただきます。

■ 記念講演

静岡大学防災総合センター
教授
牛山 素行

「地域を知り、防災を考える - 最近の豪雨災害事例から学ぶこと -」
御講演内容は省略させていただきます。

■ 鳥取県中部地震の概要と対応

鳥取県県土整備部長
山口 真司

「鳥取県中部地震の概要と対応」
御説明内容は省略させていただきます。

■ 意見発表

島根県津和野町長
下森 博之

「H25 年災害からこれまで」
平成 25 年の豪雨災害に対する津和野町の取り組みについて、意見発表いただきました。

鳥取市長
深澤 義彦

「鳥取市における主要河川の整備状況について」
鳥取市で取り組まれている治水事業について意見発表いただきました。

■ 大会決議

鳥取県
岩美町長
榎本 武利

下記の大会決議案を読み上げて提案の後、大会決議が承認されました。

記

一 災害から生命・財産を守る治水対策は、国としての基本的責務であることに鑑み、洪水被害・土砂災害を未然に防止し、国民が等しく安全を享受するための国土強靭化に資する治水事業を強力に推進するため、計画規模に対する必要な平成 29 年度治水事業予算の総枠確保・拡大を図ること。

一 浸水被害を軽減し、ストックとしての効果を発現するためにも、気候変動等に伴う水害の頻発・激甚化を踏まえて、地方創生を支える予防的治水対策の根幹である河川やダム等の整備を強力に推進すること。また、局地的なゲリラ豪雨に対し、河川・下水道が一体となった市街地の集中豪雨対策を推進すること。

― 頻発する水害、土砂災害に対する早期復旧・復興を図るため、災害復旧及び再度災害防止を徹底するとともに、大規模災害への危機管理対応として、地方整備局が中心となって広域的・機動的な危機管理対策を充実させるなど、国が積極的に主体的な役割を強力に発揮すること。

― 沿岸部の河川においては、台風時の高潮により浸水被害が頻発しているため、高潮堤防、水門、排水機場等の高潮対策を強力に推進すること。

― 東日本大震災を踏まえ、津波による被害の発生を防止し、または軽減するための津波観測体制の整備充実、河川津波遡上区間や平坦地における堤防・水門等の耐震化等、総合的で効果的な津波対策を推進すること。

― 頻発する風水害や地震被害を軽減するため、老朽化が進む河川管理施設について、計画的な点検・堤防脆弱性評価、予防保全型の維持管理、施設の長寿命化対策など戦略的な維持管理・更新による既存施設の機能保全・強化を図ることが重要であり、交付対象範囲の拡大等の支援策を強力に推進すること。

―「水防災意識社会」の再構築のために、地震対策も踏まえた粘り強い構造の堤防整備等の危機管理型ハード対策や円滑な避難を促す警戒・避難情報の提供等のソフト対策など、大規模水害を想定したハードとソフト一体となった防災・減災対策を進めること。特に、想定最大規模の降雨に対するソフト対策の技術的支援を行うとともに、洪水時にリスクの高い危険箇所の早期整備や交付金対象範囲の拡大等の支援策を強力に推進すること。

― 河川や水辺の持つ多様で豊かな自然環境の保全と、地域の歴史、風土等に根ざした河川環境の形成を推進すること。特に、川の営みを活かした川づくりを基本とし、良好な水際やみお筋の保全、川の連続性の確保等を行う多自然川づくりを推進すること。また、地域住民による河川愛護活動を支援するとともに、まちづくりと一体となった魅力ある水辺空間を創造するための施策を充実すること。

■ 次期開催県挨拶

広島県
土木建築局
河川課参事
樋口　稔

挨拶は省略させていただきます。

平成28年度 近畿地方治水大会

と　き：平成28年11月14日（月）
ところ：ホテルグランヴィア和歌山

平成28年度近畿地方治水大会次第

（敬称略）

開会		
主催者挨拶	和歌山県副知事	下　　宏
	全国治水期成同盟会連合会会長	陣内 孝雄
	和歌山県河川協会会長	日裏 勝己
来賓祝辞	衆議院議員	門　博文
	国土交通省近畿地方整備局長	池田 豊人
	和歌山県議会副議長	服部　一
来賓紹介		
祝電披露		
大会座長推挙		
意見発表	和歌山県那智勝浦町長	寺本 眞一
	福井県小浜市長	松崎 晃治
	兵庫県佐用町長	庵逧 典章
	京都府福知山市長	大橋 一夫
	京都府八幡市長	堀口 文昭
	川湯温泉「山水館 川湯みどりや」総括支配人	名渕　敬
治水事業概要説明	国土交通省水管理・国土保全局治水課長	泊　　宏
	国土交通省近畿地方整備局河川部長	井上 智夫
大会決議	和歌山県有田市長	望月 良男
次回開催県決定	京都府建設交通部河川課副課長	舩田 喜佐男
閉会		

■ 主催者挨拶

和歌山県副知事
下　　宏

平成28年度近畿地方治水大会の開催にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

本日は近畿2府6県から治水行政に携わっておられる多数の皆様をお迎えし、ここ和歌山の地において、当大会を開催できますこと、感謝申し上げますとともに、皆様方のご来県を心から歓迎申し上げます。また、国会議員をはじめとするご来賓の方々におかれましては、ご多用の中、ご臨席を賜り誠にありがとうございます。心から御礼申し上げます。

さて、近年の我が国は、地球温暖化に伴う気候変動等により、雨の降り方が局地化・集中化、または激甚化しており、大規模な水害が発生しております。

皆様の記憶にも新しいところであると思いますが、本年8月、観測史上はじめて台風7号、11号、9号と3つの台風が相次いで北海道に上陸いたしました。

また、東北地方の太平洋側に上陸した台風10号は、岩手県に記録的な大雨をもたらし、岩泉町を流れる小本川が氾濫し、尊い命が失われました。ここに改めて亡くなられた方々のご冥福をお祈りいたしますとともに、被害を受けられた方々に心からお見舞いを申し上げます。

本県も過去に大規模な水害を繰り返し経験しており、平成23年9月の「紀伊半島大水害」では、台風12号の影響により紀伊半島の各地で総雨量

1,000mmを超える記録的な大雨となり、56名の尊い命が失われました。その大水害から5年が経過し、道路や河川等の公共土木施設については、ほぼ復旧が完了しました。被災後、数年にわたり減少していた来県者も、平成23年度以前を上回る水準をとりもどし、昨年開催いたしました「紀の国わかやま国体・大会」などでは、多くの皆様を本県にお迎えすることができました。

さらには、熊野三山をはじめとする世界遺産を訪れる外国人観光客の増加も相まって、被災前の賑わいを取り戻しています。

これまでの被災経験を踏まえ、本県では、「災害による犠牲者ゼロ」を実現させるため、河川整備に関する県予算を倍増させるとともに、県民が自らの命を守るために必要となる情報伝達の充実を図るなど、ハードとソフトが両輪となった防災・減災対策に取り組んでいるところです。

また、将来の有事に備え、防災・減災対策に取り組むことはもとより、たとえ大規模災害に見舞われたとしても、被災地域の復旧・復興が遅れ、生活を再建する気力や地域の活力が失われることがあってはなりません。

それぞれの地域において将来の礎となる復旧・復興についてよく議論し、住み慣れたまちが被災前よりもっと良いまちになるよう、万全の準備を整えておくことが重要であると考えております。

当大会を契機に、治水事業がより一層推進されますとともに、本日ご参集の皆様方の今後益々のご健勝とご活躍を祈念申し上げまして、開会にあたってのご挨拶とさせていただきます。

全国治水期成同盟会
連合会会長
陣内　孝雄

挨拶は省略させていただきます。

和歌山県河川協会会長
日裏　勝己

ただいまご紹介いただきました、和歌山県河川協会会長を務めます、印南町長の日裏でございます。一言ご挨拶させて頂きます。

本日は、ご多忙のところ、多くのご来賓の皆様や県内外の治水関係機関の方々など、多くの皆様にご参加いただき厚くお礼申し上げます。ようこそ和歌山へお越しくださいました。また、近畿2府6県の皆様方には日頃から治水事業の推進などにより、近畿全体の発展のために多大なご尽力をいただいておりますことに対し、感謝申し上げます。

さて、近年、地球環境の変化により、巨大台風や局地的、集中的豪雨が頻発し、それに伴い全国各地で甚大な洪水被害や土砂災害が発生しております。和歌山県におきましては、平成23年台風12号による「紀伊半島大水害」により多くの被害が発生しました。我が町印南町の切目川流域でも多くの浸水被害を受けましたが、平成27年3月に、切目川ダムが完成したことにより、治水や利水の安全度が向上し、流域住民の安全・安心な生活に繋がり、大変喜んでおります。

治水事業は、このような水害から住民を守る上で最も重要であり、河川改修やダム整備等のハード面の整備を着実に進めていく必要があります。このような中、近畿各地域におきまして治水事業に携わる皆様が一堂に会し、治水事業に関する意見発表、決議がなされることは誠に意義深いことと存じます。皆様方におかれましては、この大会を契機といたしまして、近畿の治水事業がより一層推進され、住民の皆様が安心して暮らすことができる社会づくりのため、ご尽力を賜りますようお願いを申し上げます。

終わりに、本日ご参加の皆様方の、今後のご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げご挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

来賓祝辞

衆議院議員
門　博文

皆様改めましてこんにちは。本日は本大会の開催にあたり、近畿各地から私達のふるさと和歌山にお出ましいただきまして誠にありがとうございます。ここで来賓としてご挨拶させていただきます。

私達自民党の二階幹事長におかれましては、皆様ご周知のようにとりわけ防災、災害、それから国土強靱化、このような問題に対して先頭に立って取り組みいただいております。最近のことですので、ご記憶も新しいかと思いますけれども、去る11月5日、各地でいろいろな行事や報道にもありましたが、「世界津波の日」という日が制定されまして、はじめてその日を迎えることとなりました。このことについて、少しお話をさせていただきます。去年の12月に国連で各国のサインを得てこの「世界津波の日」、11月5日が制定されました。11月5日は和歌山県広川町で1854年大津波がきたときに浜口梧陵さんという方が稲村に火を放って村人を助けたという故事にちなんで、制定された訳であります。その制定される過程で、私達国会議員が手分けをしまして、東京都内の各国大使館にこの日を「世界津波の日」に制定してほしいとお願いにあがりました。海のない国、津波をまったく心配しない国では、なぜ「世界津波の日」が必要なのだという話になり、こちらからご説明させていただきました。「これは別に津波に用心しようとこの日を制定しているわけではありません。自然災害の中で最も大規模に人命を失うもの、それが津波であります。インドネシアでは一気に20万人の人命が亡くなったこともあります。したがって、この津波をシンボルとして広く自然災害について我々人類が啓蒙活動をしていこうというために、この津波を題材に取り上げさせていただいております。」という話をさせていただきましたら、なんとすべての国がこのことにサインをしていただいて、めでたく11月5日が「世界津波の日」に制定されました。その発祥の地が我々のふるさと和歌山でありますので、和歌山が治水のことも含めて、すべてにおいてこの災害、防災について先頭を走っていく決意を改めて皆様の前でお示しをしたいと思います。

二階幹事長が最近あちらこちらでお話をされていますが、まさにその通りだと思うのは、皆様もお分かりかと思われます、ことわざの中に「天災は忘れた頃にやってくる」ということわざがあります。このことわざは私達子どもの頃から何度も耳にしておりますけれども、昨今は、二階幹事長曰く、忘れる間もなく、忘れる暇もなく災害はどんどん起こってくる時代に我々は突入したということになります。改めて今日この治水の関係で、いろいろな発表やいろいろな取り組みがあると思いますので、是非、実りある一日にしていただきたいと思います。

そして、この予算のことでありますが、先ほどご挨拶の中にもありましたが、やはりこれは正直申しまして、財務省と我々が戦いをしていかなければならないと思います。一義的には国会議員が力を結集して、公共工事、そして防災、災害、国土強靱化、このようなものに取り組んでいかなければなりません。是非それぞれの地域から、それぞれの地方から皆様方もこのことに対する賛同のご協力の声を上げていただいて、私達もしっかりと予算が確保できますように取り組んでまいりたいと思います。

最後になりますが、特に他府県からお越しいただいた皆様、今日は初めて和歌山に来られた方もいらっしゃるかと思います。意外に近いところに和歌山は今あります。道路も鉄道も十分に整備されてきておりますので、今日はなかなかお忙しいのでそういう暇がないかもしれませんけれども、また改めて和歌山に家族や職場の皆様とお越し頂きたいことをお願いいたしまして、私からのご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

国土交通省
近畿地方整備局長
池田　豊人

いつも大変お世話になっております。近畿地方整備局長を務めております、池田豊人と申します。今日は主催者をはじめ、近畿地方の治水に関係する皆様が大勢お集まりになりまして、門先生はじめ多くの来賓の方の出席もいただき、このように盛大に治水大会が開かれますこと、治水の担当している一人としても大変心強く思っております。

今年度、近畿地方は幸いに大きな災害は起こりませんでしたが、平成23年の紀伊半島大水害及び平成25年の台風18号の由良川、桂川、こういったところで大きな災害がありました。近年は先ほど門先生の方からも「忘れる間もなく」という話もありましたが、まさにその通りで、連続して大きな災害が起こっております。このような水害、災害に対して短期的な対策を大至急やってきました。これらについては、概ねの目処は立ってきましたが、引き続き早期の完成に向け、全力で取り組んで参りたいと思います。

また、来年度以降は、さらに安全度が高まるよう進めて参りたいと思っております。例えば、平成23年の紀伊半島大水害を契機に、山肌の荒れが進みまして、水害以前より明らかに土砂の流出が増えてきております。このような土砂流出に対しまして、来年度からは土砂を下流にできるだけ流さないように準備を進めております。

ところで、最近は雨の降り方が言うまでもございませんが、今までの経験とは違う降り方をしております。こういったことから、迅速な避難が非常に重要でございまして、そのためのタイムラインというものをそれぞれの自治体で作成していただいております。また、水防団の活動についても、充実をしていただいておりますけれども、是非こういった活動につきまして、これからもペースをあげていただければと思います。

そしてなにより、先ほどからお話にありますように、事前予防対策の予算、こういったものが不足しております。来年度の公共事業予算の増額の中で、こういったものを増やしていかなければいけないと思っておりますので、是非これから予算編成の時期を迎えますけれども、皆様方の力添えをお願い申し上げまして、お祝いのご挨拶にさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

和歌山県議会副議長
服部　一

どうも皆様こんにちは。浅井議長は公務が重なりまして出席がかなわなくなりました。祝辞を託されておりますので披露させていただきたいと思います。

平成28年度近畿地方治水大会が開催されるにあたり、地元和歌山県議会を代表いたしまして、一言ご挨拶を申し上げます。本日は多数の自治体及び河川関係団体の皆様にご来県いただき、厚く御礼申し上げますとともに、心より歓迎いたします。

さて、本大会では「紀伊半島大水害から5年、治水事業のさらなる促進へ」がテーマとして掲げられております。5年前の平成23年9月、紀伊半島は台風12号の影響により記録的な豪雨に見舞われ、多くの尊い人命や貴重な財産が失われ、道路などインフラも甚大な被害を受けました。また今日、全国を見てみましても、台風や集中豪雨による災害は多発している状況にあります。

その世の中、治水事業に携わっている方々が一堂に会し、議論を深めて頂くことは大変意義深いことであり、今後の事業の推進に大いに期待するところであります。また、関係者の皆様のご尽力により、今年4月、那智勝浦町に土砂災害啓発センターが開所され、深層崩壊等の大規模土砂災害に関する調査・研究や啓発が進められることにも心強いものがございます。

私ども県議会といたしましても、災害に強いまちづくりのため、一層防災対策の推進に取り組んで参りますので、皆様方におかれましても、ご協力とご声援をお願い申し上げます。

結びになりますが、全国治水期成同盟会連合会ならびに和歌山県河川協会のご発展と本日ご出席の皆様のご健勝ご活躍を祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。

平成28年11月14日
和歌山県議会議長　浅井修一郎
代読でございました。ありがとうございます。

■ 意見発表

和歌山県那智勝浦町長
寺本　眞一

「平成23年台風12号豪雨災害から5年
洪水・土砂災害による犠牲者をゼロにする取り組み」
と題して、平成23年台風12号による被災経験をふまえた自治体としての取り組みについて、意見発表をいただきました。

福井県小浜市長
松崎　晃治

「住み続けたい“まち”の実現に向けて」
と題して、社会資本ストックと観光資源を活用したまちづくりについて、意見発表をいただきました。

兵庫県佐用町長
庵逧　典章

「平成21年台風第9号災害からの復興」
と題して、平成21年台風第9号による被災経験をふまえたまちづくりについて、意見発表をいただきました。

京都府福知山市長
大橋　一夫

「平成25年18号台風災害、平成26年8月豪雨災害を経験して」
と題して、平成25年18号台風災害、平成26年8月豪雨災害をふまえた「由良川における総合的な治水対策」等について、意見発表をいただきました。

京都府八幡市長
堀口　文昭

「『さくらであい館』を核とした水辺の賑わい創出」
と題して、淀川三川合流域さくらであい館の概要や関連する取り組みについて、意見発表をいただきました。

川湯温泉
「山水館　川湯みどりや」
総括支配人
名渕　敬

「平成23年台風12号からの復旧・復興」
と題して、平成23年台風12号による被災当時の体験やその後の復旧・復興について、地元経済界を代表して意見発表をいただきました。

■ 治水事業概要説明

国土交通省
水管理・
国土保全局治水課長
泊　宏

内容は省略させていただきます。

国土交通省
近畿地方整備局河川部長
井上　智夫

内容は省略させていただきます。

■ 大会決議

和歌山県有田市長
望月　良男

前文は省略させていただきます。

一　治水事業は、災害から国民の命と暮らしを守るための強靱な国土づくりの最も根幹的な事業であるとともに、地域の産業・経済の保全や活性化をもたらす事業であり、洪水被害を未然に防止し、安全・安心かつ豊かで活力のある近畿を構築するため、必要となる交付金や治水関係事業費等の社会資本整備予算の総額を確保すること。

一　毎年、頻発・激甚化する局地的な豪雨に備え、河川やダムの整備はもとより、下水道等の流域対策が一体となった治水事業を積極的に推進すること。

一　「水防災意識型社会再構築ビジョン」を踏まえた取り組みとして、浸水想定区域の拡充、市町村が策定するハザードマップの改良や避難勧告等に必要な防災情報提供機能の強化など、ハード・ソフトを両輪とした総合的、計画的な治水対策を推進すること。

一　これまで整備されてきた河川管理施設の機能を最大限発揮できるよう、老朽化対策として長寿命化計画等に基づく予防保全の実施や、定期点検等による戦略的な維持管理等、適切且つ継続的な対応が可能となるよう、河川管理施設の老朽化対策を着実に推進すること。

一　河川・海岸堤防等の耐震・液状化対策や水門等の自動化など、地震･津波浸水対策を推進するため、防災・減災に資する予算の拡充及び財政支援措置の充実を図ること。

一　地域の特性に配慮し、河川の持つ多様な機能を活かした魅力ある水辺空間の創出と豊かな河川環境の形成に資する治水対策を推進すること。

一　未曾有の災害に備え、府県・市町村等と連携しつつ、国として危機管理体制及び支援体制の充実・強化を図ること。

以上決議する。

平成28年11月14日
平成28年度近畿地方治水大会

■ 次回開催県決定

京都府建設交通部
河川課副課長
舩田　喜佐男

次回開催県の京都府よりご挨拶いただきました。